



5. 印象に残った内容について (自由記載) ※アンケートより一部掲載

【一般市民】

- ・日頃からどう生きたいか最期を迎えたいか話し合っておく。必要性を感じた。
 - ・意志を示せなくなる前に、何かの方法で家族に自分の気持ちを伝えておくことが必要であると感じました。「人生ノート」を手にとってみたいと思いました。
 - ・延命治療について、亡くなった両親の事を思い出しながら聞かせて頂きました。これからの私の生き方を考えながら聞かせて頂きました。「わたしの人生ノート」についての書き方、書きたいと思います。ありがとうございました。
 - ・全て良かったです。役に立ちました。エンディングノートが欲しいと思いました。
 - ・病院でも延命の治療についても種類があると伺ったこと医師と一般市民との普通のすれ違いの認識について知れた事。(うすうすは感じていたが)
 - ・医療のプロは必ずしも生き方のプロではないこと。どういう風に生きていきたいかを決めるのは本人であることを実感しました。
 - ・延命治療をしない事が、何も医療行為をしないこととは違う！痛みのケアをすることなど、たくさんあるという事が分かりました。
 - ・有意義な講話でした。また何回か開催されると本日参加できなかった方にも…
- 施設に入っているお兄さん、の話をされた方、施設にいながら、最期をどうするか、きちんと話し合っていなかったことに驚きました。いずれそういう時が来るのだからもっと話を詰めておかなければと思います。
- ・人生ノートの書き方は何時でも書き直し出来るし変更も出来るので都度書き直しても良い。エンディングノートとして書き置きたい。

【専門職】

- ・仲野先生の「今、元気だから聞くんですよ」と配慮ある意思確認にとっても感動しました。良好な関係を持つことで引き出していけるのだと思いました。
- ・自分らしい生き方を普段から考える重要性
- ・「医療者の普通」にドキッとしました。包括が地域の中で最も頼れる存在とならなくては…と思います。質疑応答の中で告知についての意志の考え方が聞けて、医師も悩むと知り、身近に感じる事が出来ました。
- ・質問コーナー1番目の方のお話。先生方のお話の通り、医療従事者としてドキッとしました。そういう風に患者さんやご家族に対応していたかもしれない…。PTになったきっかけは家族入院時の病院側と我々との考えに大きくずれがあり、市民感覚を医療現場に活かしたいと思ったからだったのに。初心を思い出しました。
- ・「延命治療はしない＝すべての治療をしない」ではない。本人にとって必要な治療はする。「共同意思決定」
- ・仕事で最後について話しをすることがあります。私も病院にするか在宅にするかという聞き方を。もっといろいろ説明することが大切と思った。
- ・医療や介護の従事者が、本人や家族に一方向的に意思決定を迫るとするのは確かに考えさせられた。
- ・ACPを元々なころからすすめる。私たち医療人は結論を求める行動に出る事が多いですが、丁寧に関わった時も自らの経験をもとにすこし誘導的になってしまう事があると反省しました。ディスカッションが現場にとっても身近な内容で興味深かったです。
- ・延命治療というのは、何もしない事だと考えていました。そうではなくて、痛みや苦しくないように尽くして下さるという事が安心しました。また、家族で意見が違った時にどうするかというのも今後必ず自分にもいつか来るタイミングがあると思いました。元気な時に本人に話を聞くというのは重要な事ですね。元気な時はなかなか真剣に話す機会もないですが…
- ・質疑応答で家族は次々と決断を短い時間で迫られる。専門職がより一層共同意思決定に時間が取れるといいと思いました。

